

③都市再生整備計画事業・道路改良事業と連携した津久見川河川激甚災害対策特別緊急事業について～災害からの復興に向けた新たなまちづくりへの挑戦～

受賞機関 大分県 臼杵土木事務所 建設課
津久見市 まちづくり課
津久見市 土木管理課

キーワード 河川激甚災害対策特別緊急事業、まちづくりの連携、地域の活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成29年台風18号による豪雨災害の再度災害防止策としての引提による河川改修と都市再生、道路改良が連携した取組。官と学のプロジェクトチームを結成し、地域住民へのヒアリングやワークショップを行いながら津久見川の河川改修と広場整備や景観形成などのまちづくり、安全性向上のための道路整備を連携して行った点が評価された。

1. はじめに

大分県津久見市では、平成29年9月の台風18号の豪雨により、全域で浸水や冠水等の甚大な被害が発生した。なかでも市中心部では内水被害の発生に加え、津久見川の氾濫により、床上575戸、床下412戸の大規模な浸水被害を受けた。再度このような浸水被害が発生することを防ぐため、河川激甚災害対策特別緊急事業の採択を受け、引堤や特殊堤の設置など河川改修事業に取り組み、令和5年9月に竣工したものである。

2. 事業の概要

事業推進に当たっては、大分県臼杵土木事務所、津久見市役所及び福岡大学景観まちづくり研究室でプロジェクトチームを結成し、河川改修と津久見川周辺エリアを含めたまちづくりについて検討を行っており、計画案の策定過程では地域住民へのヒアリングやワークショップを開催して様々な地元意見を取り入れたうえで事業推進を図ったものである。

河川改修工事では護岸に大分県産の自然石を使用して風格のある古き良き河川空間を創出し、特殊堤や高欄にはLED照明を設置することで夜間の防犯性向上と散策したくなるような魅力的な雰囲気を出している。また、景観面では、引堤に伴う橋梁架け替えに併せて市道を拡



特殊堤や高欄にLED照明を設置

幅し、通行車両の安全性を確保するとともに、橋梁の桁高を可能な限り薄くし、高欄の支柱を細くすることで見通しの良い景観に配慮した道路整備も行った。さらに空間づくりとして、津波発生時の一時避難所となる展望広場や憩いの場となるポケットパークを河川沿いに整備し、人々が安心して集い、賑わいを創出する空間を生み出している。

3. 事業の成果

令和5年9月3日に竣工を記念して式典とイベントを開催した。式典には多くの関係者が出席し、竣工記念動画の上映、地元区長や建設業協会へ感謝状の贈呈を行い、最後にくす玉を割って竣工を祝った。また、その後に開催した河川空間を活用した様々なイベントでは、たくさんの地域住民で賑わう等、津久見川は、人々が集う憩いの場となる魅力ある空間へ生まれ変わった。



竣工記念式典（令和5年9月3日）の様子

4. おわりに

引堤により25世帯の家屋移転が必要になったが、プロジェクトチームの取組等により地元の理解が深まり、用地交渉の着手から1年半という短期間で大半の移転が完了し、25世帯のうち18世帯は津久見市内に留まる結果となった。難易度の高い工事であったが施工業者の協力もあり被災から7年で復旧することができた。この場を借りて、関係者に改めて感謝申し上げる。

最後に、河川改修で新たに創出された河川空間が活用され、より一層の地域活性化を期待する。

賛助会員 (株)エイト日本技術開発、(株)建設技術研究所、日本工営(株)、協和産業(株)